

第4回「北海道子ども木工作品コンクール」に寄せて

森 泉 周

はじめに

北海道立林産試験場・北海道林産技術普及協会主催の第4回「北海道子ども木工作品コンクール」は、7月28日から8月25日にかけて開催された「木のグラウンドフェア」の一環として行われました。全道から個人部門は、参加校40校343点、団体部門は、4校7点、合計参加校44校、作品数350点の応募があり、創意工夫に富んだ優秀な作品が集まりました。

審査に当たっては、

- (1) 木の持ち味や彫刻板の特長を生かし、自分で新しく考えて作り出した作品であること。
 - (2) 生活に役立ったり、デザインが優秀である作品であること。
 - (3) 工作の技術が優秀である作品であること。
- の3つを基準にしました。

このコンクールは木工工作とレリーフ作品の2部門にわかれておりますが、それぞれの部門ごとに、入賞作品の特色と傾向を挙げてみます。

なお、本稿は審査員の先生方の了解を得て、表彰式の講評をもとに事務局で取りまとめたものです。

今回より知事賞が設定され、木工工作の部個人で土居麻子さんの「サイ」、同団体で佐呂間町立仁倉小学校の「夢の百武すい星」、レリーフ作品の部で藤田真

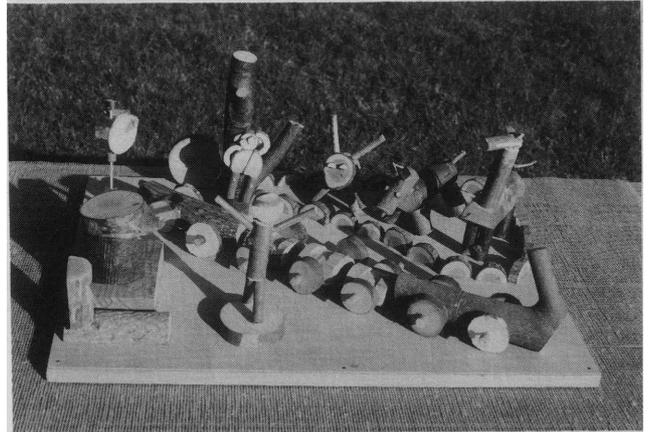


写真2 銀賞「乗り物動物ランド」

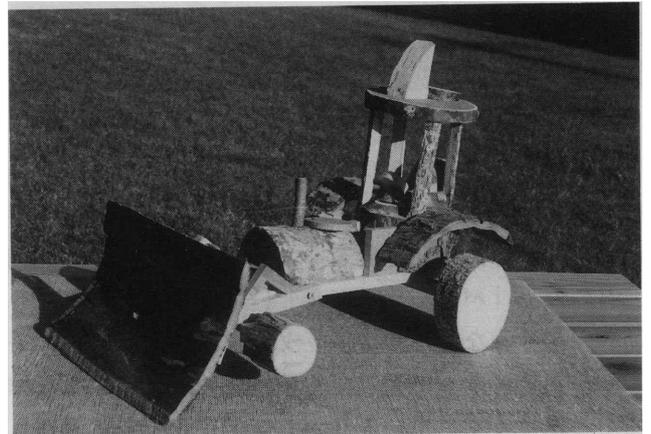


写真3 銀賞「パワーショベル」



写真1 金賞「サイ」

純さんの「花と蝶の輪」が受賞しました。

木工工作部門 小学生個人の作品

今年度は、小学生個人の部に力作が多く見られたと思います。

「金賞」に輝いた阿寒町立布伏内小6年の土居麻子さんの作品「サイ」(写真1)は、皮つきの丸太を組み合わせ、肌の荒い樹皮をうまく用いて固いサイの皮膚を表現した見事な作品でした。

「銀賞」の砂原町立沼尻小2年の青田達彦君の作品

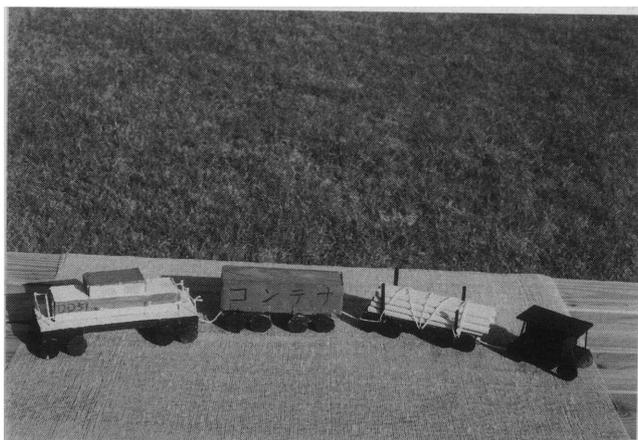


写真4 銅賞「ディーゼル機関車」

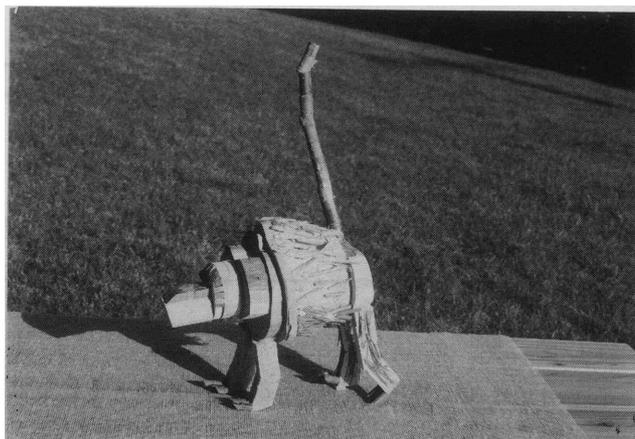


写真5 銅賞「マントヒビ」



写真6 銅賞「昆虫ランド」

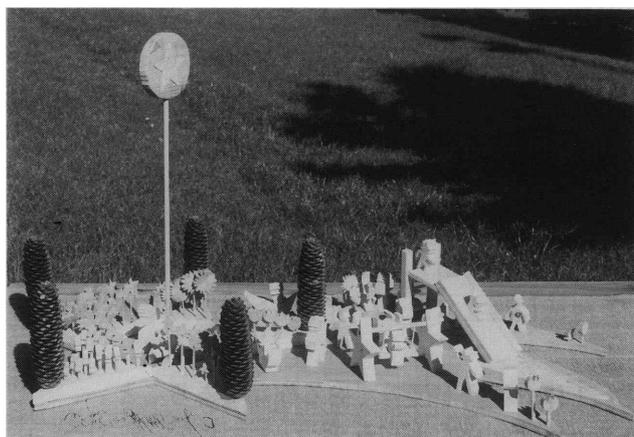


写真7 金賞「夢の百武すい星」

「乗り物動物ランド」(写真2)は、素材の持つ特性をうまく生かしており、小学校低学年の作品らしい夢いっぱいの作品です。同じく、布伏内小4年の赤堀翔一君の作品「パワーショベル」(写真3)は、今にも動き出しそうな、ダイナミックで、しかも作りは、子どもが実際に乗って遊んでも壊れない遊具のような作品だと思います。思いきりシンプルにしてある構造もよかったのではないのでしょうか。

「銅賞」の浜中町立榊町小6年の山崎賢治君の作品「ディーゼル機関車」(写真4)は、合板と針金、ボンドを用いた子供なら一度は作ってみたい作品です。布伏内小6年の大森高幸君の作品「マントヒビ」(写真5)は、丸太の輪切りや樹皮を巧みに組み合わせたものです。同じく、布伏内小3年の島国広君の「昆虫ランド」(写真6)は、一つひとつの作品に動きがみられ、それらが総合的に組み合わせられた作品です。

その他、「奨励賞」が9点の作品に与えられましたが、角材やタルキの端材を子供たちの手で変身させたユニークな作品に感動させられました。

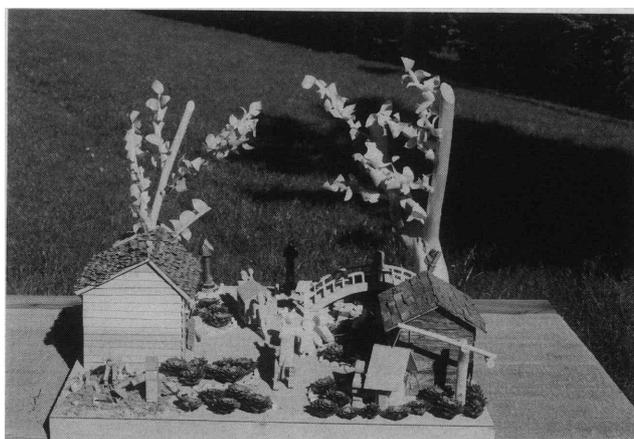


写真8 銀賞「むかしへタイムスリップ」

小学生団体の作品

今年の団体作品は、第1回目から連続して力作を出品している置戸町立勝山小学校と佐呂間町立仁倉小学校、それに新冠町立明和小学校といずれも小規模校の共同作品が出品されました。

「金賞」の佐呂間町立仁倉小学校の作品「夢の百武すい星」(写真7)は、テーマどおり、神秘的な宇宙に

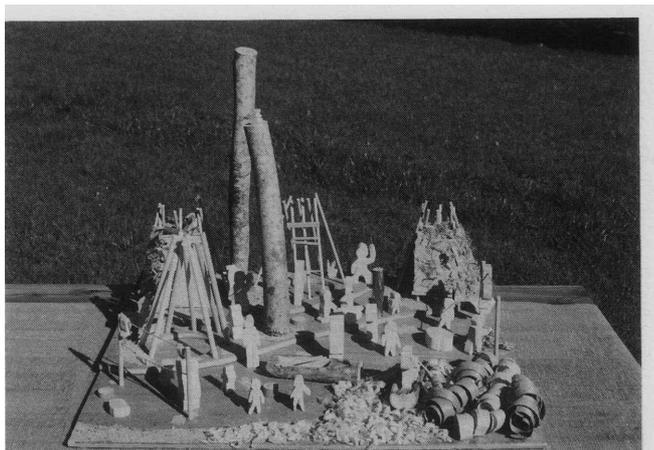


写真9 銀賞「大昔のくらし」

かける子供たちの夢がいっぱいで、一つひとつ精巧に切られた星の群と雲海…ロマンチックで斬新な構成でまとめられた作品でした。

「銀賞」の置戸町立勝山小学校の作品「むかしヘタイムスリップ」(写真8)、佐呂間町立仁倉小学校の作品「大昔のくらし」(写真9)も、社会科の共同学習作品として優れた作品でした。

「銅賞」は砂原町立沼尻小学校の「わくわく動物園」(写真10)で、素朴さの中に楽しさがあふれる作品でした。

どの作品もそれぞれ小径木や小枝、松かさなどの素材の効果的な用い方や、接合技術、表現力などが総合的に年々向上してきているように思います。協力して製作している子供たち、指導されてきた先生、地域の方々の姿が浮かんでくる作品でした。

中学生個人の作品

今年度は、例年になく小作品でまとめられている感じがしました。また、キット物の出品も少なく、オリジナルなものが多いようでした。技術面においても、

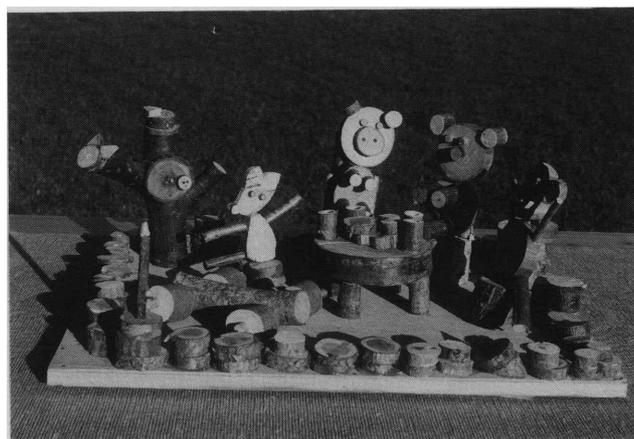


写真10 銅賞「わくわく動物園」

中学校の工作作品から専門的な工芸品そして、単板加工から積層材加工と幅広い出品でした。

「金賞」の札幌市立稲穂中2年の鹿野亜矢子さんの作品「サラダボール+」(写真11)は、糸のこで切り出した輪を積み上げ、上部にチーク材を配したモダンな作りでした。旋盤を使う「くりもの」のように丁寧に曲面を成形した均整のとれたこの作品は、ノミやヤスリで根気よく削り出した力作でした。また、ボールに添えられた手彫りのフォークとスプーンも手作りの暖かい味わいが伝わってくるようでした。

昨年に引き続き出品された、銀賞、銅賞の教育大学付属函館中の3人の一連の作品「インテリア照明」は、デザイン的にも、ちぎりを摸した象眼(木材・金属などの材料に模様を刻んで、ほかの材料をはめ込む技法)、曲げ木加工など、一段と洗練された作品になってきているように思われます。

特に、「銀賞」の3年の大久保章訓君の作品「光と影(てんとうむし)」(写真12)は、小割り板による構造的な組み立て、作り手本人の豊かな感性と優れた表



写真11 金賞「サラダボール+」

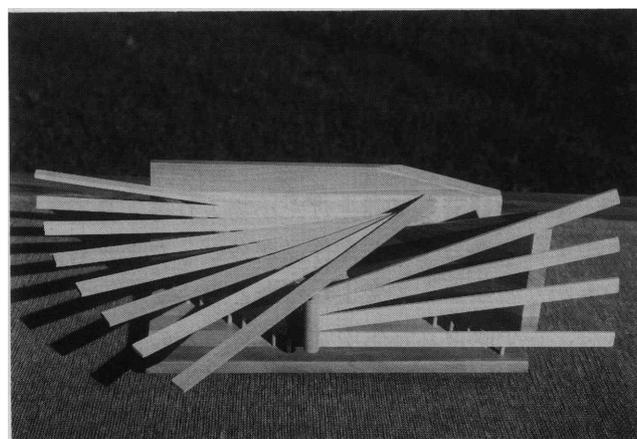


写真12 銀賞「光と影(てんとうむし)」

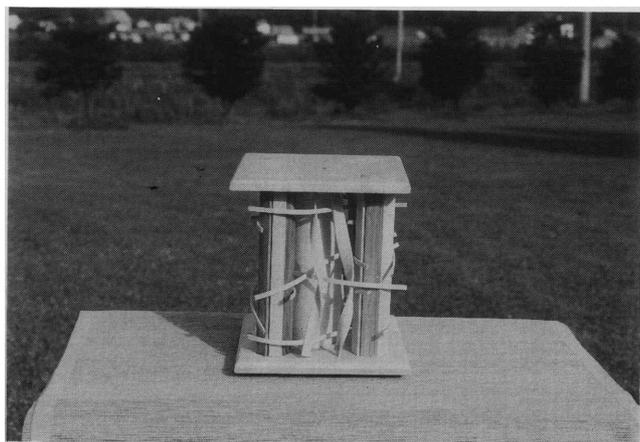


写真13 銅賞「ダリ的照明」

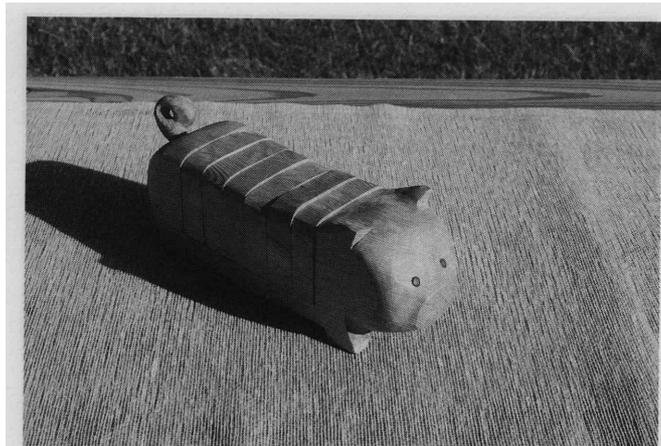


写真14 銀賞「ペイプコースター」

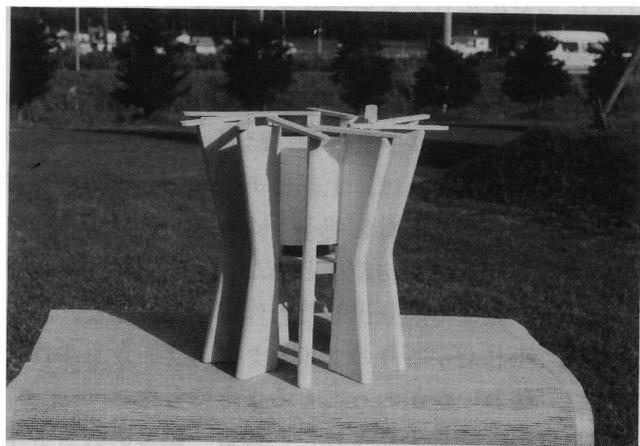


写真15 銅賞「光と影(洋風行灯)」

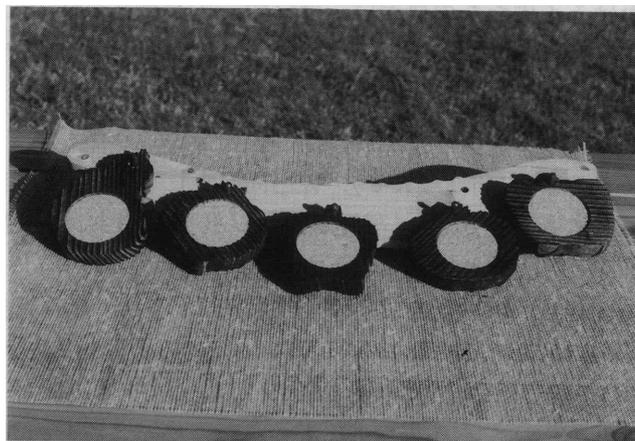


写真16 銅賞「ベジタブルコースター」

現力もさることながら、それを引き出している指導者の力量も想像されます。「銅賞」には3年の田嶋慎一君の作品「ダリ的照明」(写真13)、同じく南部晃宏君の作品「光と影(洋風行灯)」(写真15)が入賞しています。

同じく「銀・銅賞」のコースター類、札幌市立稲穂中2年の伊藤千尋さんの「ペイプコースター」(写真14)、同じく本田裕美さんの「ベジタブルコースター」(写真16)、「銅賞」の函館市立潮見中2年の一色裕之君の「メガネ掛け」(写真17)などは、日常生活の中から生まれたほほえましい作品でした。

そのほか、「奨励賞」が9点の作品に与えられましたが、単板を接着して仕上げた小物入れ等、身近な素材とモチーフから生まれた作品が多かったことも、今後の広がりから大変よかったと思います。

また、苫小牧市立弥生中学校の皆さんの糸のこで切り出された、ていねいな仕上がりの壁掛けも楽しい作品でした。



写真17 銅賞「メガネ掛け」

レリーフ(「アート彫刻版」)作品部門

全体的に中学生の作品が多く、また、それらの作品は技術的にも一段と高かったと思います。これも過去3年間の積み上げの結果だと思います。

レリーフ(彫刻)の善し悪しは、用いる素材とモチーフ、それに彫りのタッチ(表現)にあると思います。

精密な細い毛彫り、荒いタッチのノミ彫り...とそれ



写真18 金賞「ヤマセミ」



写真19 銀賞「あさがお」

それぞれ味のある作品ができると思いますが、それにはまず刃物を切れるようにすることで、素材が生きてきます。

小学生の作品

「金賞」の旭川市立西神楽小6年の小澤雄大君の「ヤマセミ」(写真18)、「銀賞」の旭川市立江丹別小5年の永井真奈さんの「あさがお」(写真19)は、共に大胆な構図とはっきりした彫刻刀の線の切れ味が作品を引き立てていました。

「銀賞」の旭川市立新町小6年の森武祐介君の「今はばたこうとしているワシ」(写真20)、「銅賞」の帯広市立帯広小6年の西口千尋さんの「ひまわり」(写真21)、旭川市立西神楽小6年の新浜未穂さんの「ハムスター」(写真22)、旭川市立江丹別小5年の伊勢昇平君の「ぬけがらを食べているトンボ」(写真23)など、観察力の鋭い楽しいモチーフの作品が印象に残っています。

そのほか、「奨励賞」には5点が選ばれました。

中学生の作品

次に中学生個人ですが、大判のアート板を使っているせいもありますが作品の質も良く印象に残る作品が多く目につきました。

「金賞」の旭川市立神楽中3年の藤田真純さんの作品「花と蝶の輪」(写真24)は、大胆な構図と彫りの深さでダイナミックな作品に仕上がっています。

「銀賞」の当麻町立当麻中2年の高田直樹君の「朱

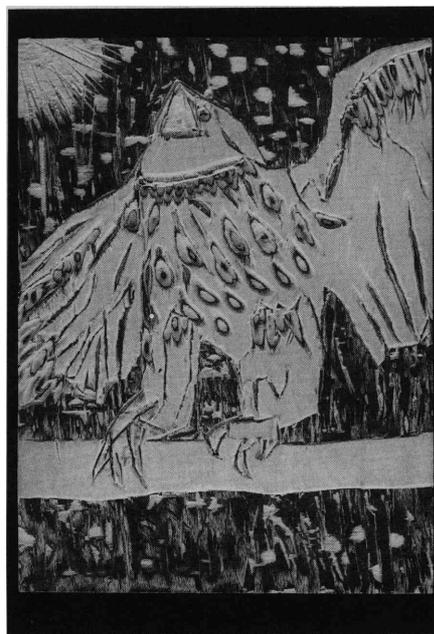


写真20 銀賞「今はばたこうとしているワシ」

鞠内湖畔」(写真25)、「厚沢部町立鶉中3年の久保直人君の「ひまわり」(写真26)、「教育大学付属函館中3年の坂口陽子さんの「鱒の開き」(写真27)は、絵画的な表現でうまくアート板を用いた作品です。特に「鱒の開き」の実や骨の部分の表現はずば抜けて優れていました。

「銅賞」には旭川市立西神楽中2年の向平ちあきさんの「ミズバショウ」(写真28)、札幌市立稲穂中3年の長嶋美幸さんの「生きぬく」(写真29)、旭川市立北都中3年の白倉由佳さんの「ひまわり」(写真30)、江

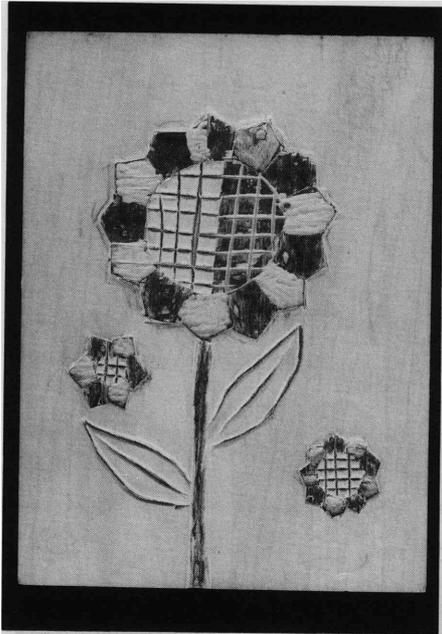


写真21 銅賞「ひまわり」

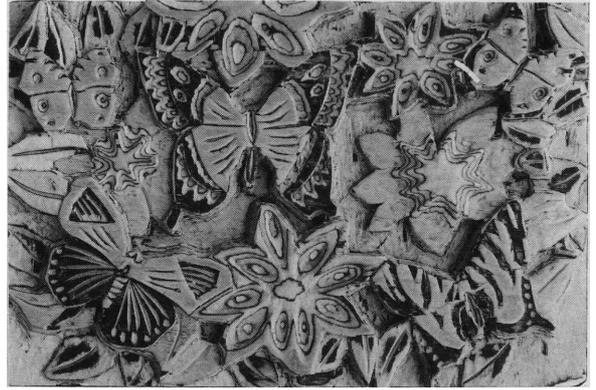


写真24 金賞「花と蝶の輪」

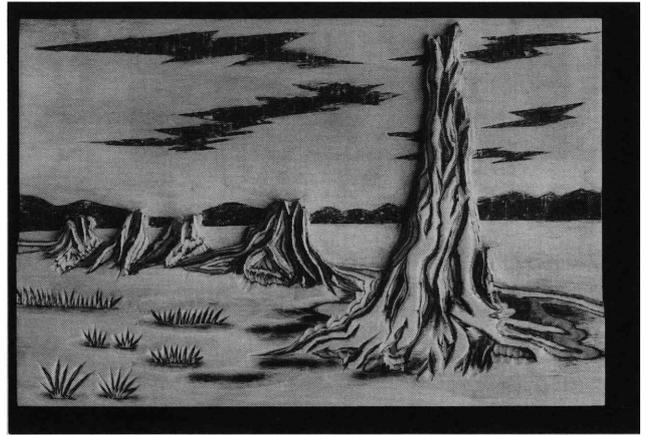


写真25 銀賞「朱鞠内湖畔」

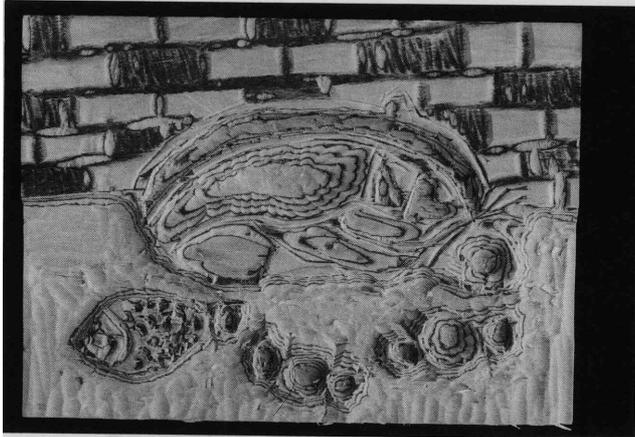


写真22 銅賞「ハムスター」

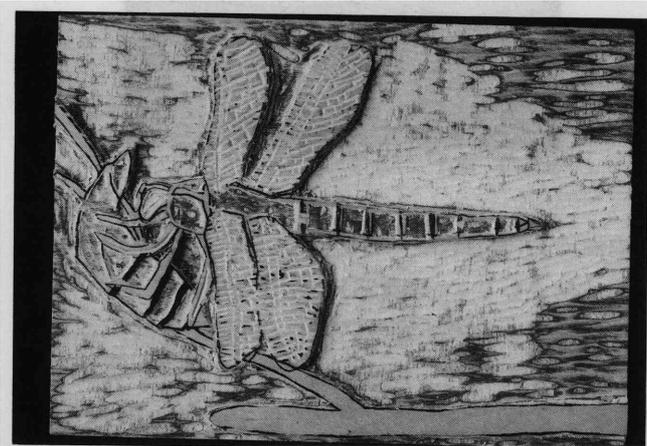


写真23 銅賞「ぬげがらを食べているトンボ」

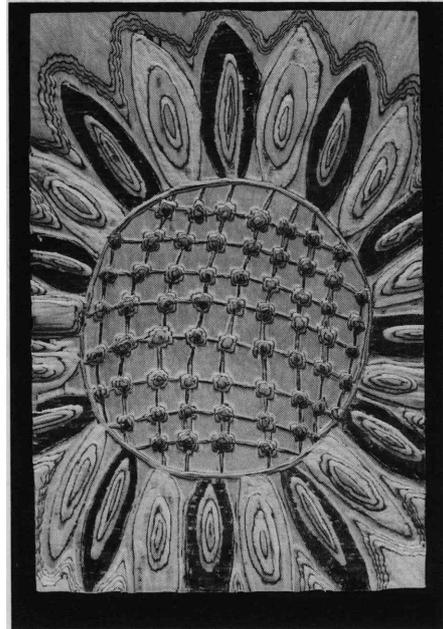


写真26 銀賞「ひまわり」

別市立第三中3年の成田英未さんの「がんばろう!イ
チロー!」(写真31)の4作品が入賞しました。
その他、「奨励賞」には10点が選ばれました。

おわりに
最後に木工作の指導について少しふれたいと思いま
す。木工作は児童生徒にとって興味や関心が高く意欲

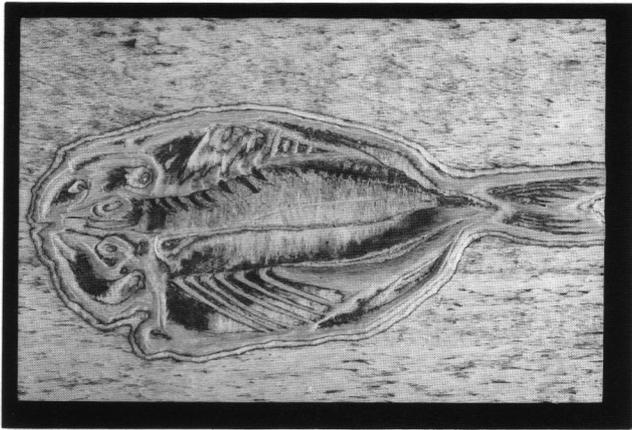


写真27 銀賞「鯡の開き」

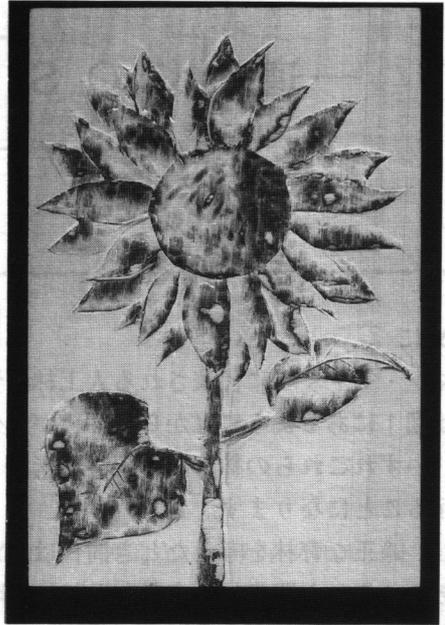


写真30 銅賞「ひまわり」



写真28 銅賞「ミスバショウ」



写真31 銅賞「がんばろう！イチロー！」

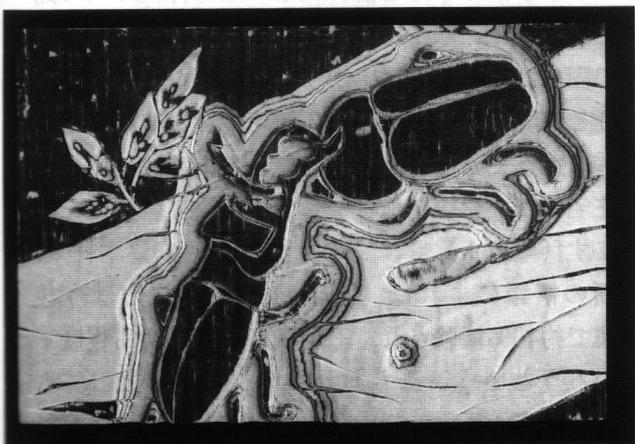


写真29 銅賞「生きぬく」

をもって取り組める表現活動ですが、学校の限られた「図工・美術」の授業時間内で完成度の高い作品を製作させることは難しい面があります。

ですから、余裕をもたせた時間を獲得できるようにクラブ活動・部活動や自由研究などを通しての指導などを各学校で検討してほしいと思います。

(林産試験場 普及課)